

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100016	
法人名	社会福祉法人恵優会	
事業所名	グループホーム青葉町日和	
所在地	甲府市青葉町14-15	
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月8日 月曜日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が主体であること。やりたい事が自由に出来るように支援すること。コロナ禍で外出が思うように出来ない現在、全国ご当地グルメツアーを開催し、毎月1回から2回各地の名物を食し、その土地へ出かけた気分を味わうと共に、職員が風習や風土を伝えている。47都道府県のご当地グルメを制覇する為には、約4年掛かるが、ご利用者様全員が元気に毎日が過ごせるようにとの願いも込めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋2階建ての事業所は、1階がデイサービス、2階にグループホームと小規模多機能型居宅介護とが併設されている。目の前に市営グラウンドがある住宅地の一角にある。事業所の玄関正面・共有空間の窓から富士山が眺められ、四季の変化の感じられる環境である。デイサービス自慢の自噴温泉に入る、日々の少人数での散歩で近所の方と挨拶を交わす、幼稚園の園児と超越しに手を振る等の楽しみがある。職員のアイデア「全国ご当地グルメツアー」を開催しご当地グルメを食しながら話に花を咲かせている。また、自分で選ぶ「弁当のテイクアウト」も入居者の活性化に繋がっている。事業所の理念「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」を目標に、入居者に寄り添い、個々の個性を尊重した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自分らしく暮らすと言う地域密着型サービスの意義、事業所の理念について月1回のミーティングで再確認や共有を行なっている。また、事務所内に掲示している。	事業所の理念兼目標でもある「住み慣れた地域で自分らしく暮らす」を事務所内に提示してある。毎月のミーティングで理念の確認と入居者1人ひとりが安心してここで望む暮らしをしていただけるような継続的支援・地域との関わり等を常に職員間で話し合い、理念に基づく支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事へは定期的に参加していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域との係る機会がなくなった。しかし、青葉町民生委員は、運営推進会議に出席頂いており、日頃日和の活動を報告している。2月の節分には大神さんより鬼が来て節分行事を楽しむ事が出来たが、それ以降は外部との交流が出来ていない。	自治会に加入。コロナ禍で地域の行事やボランティアなどの受け入れの機会もなくなっているが、職員のアイデアで、外食気分や旅行気分を味わってもらおう「全国ご当地グルメツアー」・自分でお弁当を選ぶ「お弁当テイクアウト」等楽しんでいる。天気の良い日には少人数で散歩に出掛け、近隣の出会った方と挨拶を交わす、幼稚園児とガラス窓越しに手を振る等の楽しみもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は他法人の運営推進会議に出席していたが、現在はコロナの影響で出席していない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター、民生委員、他事業所の方へ出席して頂き、活動報告を行なっている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、書面での活動報告し書面でご意見や感想を返信して頂いている。頂いた貴重な意見はサービスに生かすようにしている。議事録を作成し、回覧共有している。	2か月に1回の運営推進会議は書面で各委員に報告し返事をもらっている。意見・要望はなく、コロナ禍でお互いに大変な状況なのでしっかり感染予防をして行きましようとして申し合わせている。コロナ禍で地域包括支援センター・2名の自治会長・民生委員さんが集まった折「虐待への取り組み」の話があったがこちらの事業所ではどうですかと投げかけがあった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を作成し、市町村に提出している。また、日頃より運営して行く上での疑問や質問等解らない事があれば、直接出向いたり、電話での連携をとっている。	運営推進会議の議事録は本部の事務長が出向き担当者に直接手渡したり、書類の郵送や電話で済ます事もある。質問等は管理者が直接電話している。今回は4月の法改正による加算について質問しアドバイスを受けた。地域包括支援センターを含め市の担当者とも密に連携が取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアの実践の為、月1回のミーティングでの勉強会や法人内の身体拘束解消委員会(3ヶ月に1回)を開催し、意識的に取り組んでいる。また、マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	毎月のミーティングの中で高齢者虐待の内容・虐待行為・スピーチロック等のマニュアルを提示し職員間で話し合っている。職員は「身体拘束」の理解は出来ていると思っている。また、自己チェックリストを提出してもらい、自分自身を振り返る機会にしている。職員同志、注意し合える環境でもある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてもミーティングでマニュアルを用いて勉強会を行なっている。日頃の業務の中でも、互いに注意しあえる環境作りを行い、意識的に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	CM、管理者は権利擁護研修を受講し、研修内容を勉強会で共有できるようにしている。また、研修資料をいつでも閲覧出来るようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学の際にも説明を行うようにしている。また、契約の際には丁寧に説明するように心掛けている。ご利用者様やご家族様の意見や要望も言って頂けるよう関係作りをしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に対しては、年2回意見や要望をアンケートとしてお聞きしている。また、その内容はプランに反映したり、ミーティング内で職員間共有している。家族会開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い未定となっている。	家族の意見や要望は年2回の家族アンケートや電話・玄関でガラス越しの面会時に聞いている。コロナ禍で話せる時間が限られていることから、日頃の様子を心配されているご家族が多い。往復はがきを送ってくる家族もいる。毎月、行事や入居者の写真を盛り込んだ「青葉日和長寿便り」を送付し家族に大変喜ばれている。未定と成っている家族会の検討も考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の常勤会議や2ヶ月に1回の管理者会議、サブリーダー会議で法人内連絡、報告、相談を行なっている。また、月末ミーティングには、日勤常勤職員は、全員が出席できる体制にし、意見交換や情報の共有を行なっている。夜勤専属の職員に対しては、直接申し送りや議事録の閲覧を行なっている。	法人の事務長が年1回職員と面談し、人事効果や書面による勤務契約を行ない、意見や要望を聞く機会も設けている。また、毎月の常勤会議で意見や要望が出され本人の事情による勤務体制の変更が行われた。職員のアイデア「全国ご当地グルメツアー」がスタート現在10都道府県のグルメを制覇し入居者と旅行気分を楽しむ等、職員の意見や要望が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を年2回行い、その後、人事担当の事務長が個人面談を行いそれぞれの意見などを聴き取り、個々の職員に向けた雇用整備を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講できる環境作りや、研修後のレポートを提出し勉強会の実施し情報共有が出来るように。月1回のミーティングでは、テーマを決め勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターで開催している研究会の参加や、研修、他事業所の運営推進会議の出席等で交流の機会を確保している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や契約の際に、自宅や病院等に出向き面接を行なっている。生活歴の聞き取りや、ご本人様の意見や要望を反映したプランの立案に努め、安心してホームでの生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や契約の際に、要望や意見をお聞きし信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態を常に観察し、ご家族様とも協議をしながらご本人に合うサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事を見極め、出来ない事への適切な支援を行う事によって、自立した生活が送れるよう心がけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気軽に来所して頂ける環境作りを行なっている。また、ご家族様と一緒に過ごせる時間を大切に考えている。コロナ前は、ご家族様が参加できる行事を立案し、参加をお願いしていた。年間行事一覧や、毎月のお便りで行事や日々の生活の様子をお伝えしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟親戚の方等の面会時には自室でゆっくり過ごせるようにしている。また、手紙や年賀状の送付も行なっている。ただし、現在は面会は中止しているが電話や手紙等のやり取りは継続している。	入居時に本人・家族から聞き取り、馴染みの人・場所の把握は出来ているが、日頃の様子や会話からも思いをくみ取るように心掛けている。車で自宅の様子を見に行く、馴染みの場所に行く、電話をかける、手紙を書く等職員間で常に話し合い、馴染みの関係が途切れない支援の継続を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味活動や散歩等の個別ケアや、年間行事、カラオケ等の集団ケアを通じてそれぞれの時間を楽しく過ごす事。生活の中での掃除や洗濯物干し等で互いに助け合い支えあう関係作りをしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に移行先に連絡し、ご本人の様子を聞いている。ご家族と連絡することもあり必要に応じて、ご本人についてのこと、今後の事について相談を受けることもある。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人一人としっかり時間をとり、ご本人の希望や意向を聞き、生活の中で反映できるように努めている。お風呂が好きにご利用者様にはデイサービスの温泉に入ってもらうなど、他部所の資源も活用している。	入居者の希望や要望の把握をするため、一人ひとりと話す機会を持つように努めている。デイサービスのイオウ温泉に入るのを楽しみにしている方が多く、平日はもちろん日曜日にも入浴される入居者もいる。レクリエーション活動等も個別性を尊重し、一人ひとりに寄り添った支援となるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族にアセスメントをし、入居される前の生活を把握し、ご本人の大切にされている事柄などを聞き取り、今までの生活リズムを変えないように配慮している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の実行表を作成し個別の状態を常に観察し、体調などの状況や状態の変化を把握し、職員間で情報を共有し対応するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングにおいてケースカンファレンスを行い、目標達成度や個々の情報を収集し、更新等にはご家族や主治医から意見や要望を聞き、担当者会議も行なっている。県外に住むご家族様に対しては、書類を郵送し書面での聞き取りを行なっている。	入居が決定したら、本人・家族から意見や要望を聞いている。その後、施設見学・居室の説明・暫定プランの説明を行なっている。日々の記録を基に毎月モニタリングを行ない、初回の介護計画は3か月、その後は本人の主訴を活かす事を踏まえ、担当者会議を行ない家族・主治医の意見も聞きながら半年ごとに見直している。状態変化時は随時計画の見直しを行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	発言や訴えを傾聴し日々の体調変化など様子の記録を行い、記録の確認や職員から聞き取りをし、計画書の見直しに活用している。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の合同行事に加え、ホーム内でも毎月ごとに行事を計画し、取り組んでいた。コロナ以前は利用者様の希望で外出や外泊も行ってた。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員と交流したり、自治会主催の行事に参加するなどして地域社会との交流を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診や必要に応じ受診を行い、利用者様の情報を共有し内服調整などを行っている。年に一度の健康診断も時期をみて行っている。利用者様の馴染みの病院への通院も継続出来るように対応している。無理に主治医を変更しないようにも努めている。	入居前からの係りつけ医希望が3名おり、定期受診対応は事業所で支援している。家族への報告は電話やお手紙で随時お知らせし了解を得ている。往診医は月2回、歯科医は月1回、看護師は毎週来訪しており、事業所を通し主治医や訪問医との連携を図り、入居者の体調管理・健康管理を行っている。必要時の歯科医・専門医の受診は職員が同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報を共有し、介護職では出来ない浣腸等適宜実施している。緊急時等には日頃からの相談先として法人内の看護師にも相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した際には、利用者様の情報や基本情報などを持参し、主治医への相談やご家族様と協力など連携しご利用者の早い回復に努めるようにし馴染みの生活にもどれるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、契約時に事業所で出来ることをしっかりと説明し理解を得るようにしている。状態変化した場合は早い段階でご家族様と連絡し合い支援できるようにしている。	看取りは行っていないことを入居時に家族に伝え、重度化になった場合は病院への転院や施設への入所の説明を行っている。食事がとりにくい・個浴が難しくなった等の日常生活が困難であろうと思われる場合、早めに家族と連絡を取りながら、今後の事を主治医・看護師・ケアマネジャー・管理者を交え話し合い、家族の希望に沿った支援を心掛けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング内で事例や事故発生時の対応について説明している。またヒヤリハットや状況報告書の統計をとり情報共有しながら活用している。急変時や事故発生時のマニュアル作成もし、共有している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内合同での年4回避難訓練の実施。連絡網の作成。非常食等の備蓄。県の防災サイトの確認を定期的に行っている。また、火災、地震発生時と水害時の避難場所が異なる為避難経路の確認を法人全体で定期的に行っている。	法人全体で火災・地震を想定した避難訓練を利用者と一緒になら2~3回実施している。また水害時は避難場所が自治会館と成っているため、経路の確認と実際のどの位の時間がかかるのか確認を行なった。また、半年に1回防災サイトを確認している。電力確保の問題が提起されていることから法人内に発電機を購入し設置する等、備品・食料の備蓄もしっかりと出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、尊敬、敬う心を忘れず、意識的に日々の言葉掛けやケアを実践している。	遠くから声掛けをせず、目線を合わせた声掛けを心掛けています。職員は、入室時は必ずノックと声掛けを行なう、トイレ・入浴等の誘導時はさりげなくプライバシーに配慮した声掛けを心掛けています。居室は内・外両方から鍵がかけられるように成っていて自分で鍵をかける入居者もいる。個人情報の保管も出来ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		起床時の衣類の選択や買い物の支援。趣味活動が自由に行なえるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		一人一人のペースにあわせ、必要に応じて自室で食事したり、午睡や自室で過ごすつろぎの時間も大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		ご本人の好みの身だしなみやお洒落が出来るように、その都度希望をお聞きし、お洒落が楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		誕生日会では好みのメニューを伺い提供している。以前は毎月外食に出掛けていたが、現在は月1回お弁当の日を設け選択メニューを実施している。日々の食事の時は準備や片付け等はご自身で行えるように声掛けしたり、一緒に行なうようにしているが、気分が乗らないときはご本人の意思を尊重している。		朝食は食事担当者が決め作っている。昼食・夕食は外注業者から届いた食材を湯煎・解凍して提供している。コロナ禍で今まで出来ていた買い物や外食は出来ていないが、月1回自分で選ぶお弁当のテイクアウト日・月1～2回全国ご当地グルメツアー日・お麺類日・お誕生会等があり、職員と一緒に準備や片付けを行う、地図を広げて旅行気分を味わう等、食のイベントを楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		ご利用者様の状況に合わせて硬いものを刻んで提供している。ムセやすい方にはトロミ対応を行なっている。食事量や水分量を記録し、摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		口腔ケアは全身の健康や病気の予防、美味しく食事することにも繋がるので、毎食後実施している。月に1回主治医の歯科医師の往診を受け、義歯の調整やクリーニングも実施している。最近では口腔内が柔らかくなる口腔筋機能体操などの指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		個人の排泄チェックを実施し、排泄パターンを把握。適宜誘導を行い、排泄の自立を促している。出来るだけ布パンツを使用できるようにしている。		自己パンツ7名、リハビリパンツ対応2名。全入居者が昼夜トイレで排泄している。自力でトイレに行かれる方が多い事から過剰な誘導は行わず、個々の排泄チェック表を基に定期的にさりげない声掛けを行なう等、自立を促しそっと見守る支援を職員間で統一している。失敗時は羞恥心に配慮した支援を心掛けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		主治医と相談し、内服コントロールする場合もあるが、運動や水分量を確保し、排泄のリズムを整え、個人に合わせた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		個人の希望を尊重し、入浴できるようにしている。ホーム内での入浴だけでなく、法人内の温泉も利用している。また、失禁があった場合は状況に合わせて対応している。		入浴は毎日入浴できる体制は取っている。入居者の体調に合わせて週2～3回の入浴と成っている。季節の柚子湯・入浴剤を使用する等楽しく入浴できる工夫をしている。また、法人内にあるイオウ温泉にデイサービスの利用者がいない時間帯や日曜日に入るのをとても楽しみにしている入居者もいる。

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム青葉町日和**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、ご利用者様の生活習慣に合わせて安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は専門医に相談し、内服している。副作用についても情報を共有し、職員全員に申し送りしている。また個人のお薬説明書をファイリングし閲覧している。食前後の配薬や服薬介助の際は、ダブルチェックを実施したりご本人に氏名の確認し誤薬が無いよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事好きな物など趣味活動を積極的に取り入れている。年間行事を計画し適宜外出や外食等を行っていた。またご家族との外出の機会も確保していた。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に合わせて近所への外気浴を行い健康維持のためにも、定期的に行っている。お花見や紅葉狩り、外食等定期的に出掛けている。ご家族との外出も行っていた。	天気の良い日には出来るだけ戸外に出る機会を多くするように働きかけている。庭に椅子やテーブルをセットし外気浴をしながらお茶を飲んだり、おしゃべりをする方や畑でハウレンソウ・トマト・小松菜・ピーマンを収穫する方・草取りをしてくれる方、個々それぞれの状況に応じた楽しみ方を職員と一緒にいきいきと過ごしている。お花見ドライブの計画も検討中である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物や必要なものがある時など希望時は買い物に出掛けていた。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚、ご友人との電話の取次ぎは適宜行っている。ご家族と手紙のやり取りも行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜間は廊下や室内の照明を調整している。共有スペースのテレビの音量も調整している。室内装飾は季節感を大切に皆で作成したり、飾り付けを行っている。	玄関入口には常に花の鉢植えや可愛い小物が飾ってある。共有空間にはゆったりと寛げるソファ・テーブル・椅子・テレビ・加湿器が置いてあり家庭的な雰囲気居心地のよい空間と成っている。共有空間の壁や廊下には入居者の創作物である季節の貼り絵・ひな祭り・行事写真等が飾られ季節感を感じれる工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置の工夫や、仲の良い同士が交流出来るようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や大切にしている物をご持参して頂き、その人らしい生活が維持できるようにしている。	ベッド・冷暖房・洗面台・洗面用キャビネット・椅子・防火カーテンが備えてある。日当たりの良い明るい一人ひとりの居室にはそれぞれ馴染みの家具やタンス・テーブル等がセットされ、壁には家族写真・時計・習字等が飾られ、人形や趣味の置物等が置いてあり、居心地よく安心して生活できる環境と成っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居心地の良い空間作りを心掛けている。おひとりおひとりが自立した生活が送れるように必要に応じて掲示したり、職員が声掛けを行いながら支援している。			